

第44回バイオマスタウンの公表

【新規公表：3構想の概要】

・青森県黒石市（くろいしし）

黒石市は、稲作及びりんご生産を中心とした農業が基幹産業であり、それに由来する稲わら、もみ殻、りんご剪定枝、また山間部で発生する森林間伐材や林地残材、さらに市内りんごジュース工場で発生するりんご搾り粕などの有機質資源、いわゆる「バイオマス」が豊富に存在している。このバイオマスの利活用を図ることで、有機質たい肥の生産やバイオコークスの製造等を確立し、新たな産業の育成、雇用創出、農家所得の向上を目指す。

・岩手県釜石市（かまいしし）

釜石市は、地域の豊かな自然と森づくり、川や海などの水域の保全を目的に間伐材や林地残材などの木質バイオマスの利活用に重点的に取り組むとともに、廃食用油のBDF化や、し尿汚泥等の肥料化のほか、漁業系廃棄物の資源化などバイオマスの発生から利活用までのシステムを構築し、持続可能な循環型地域づくりを目指す。

・兵庫県養父市（やぶし）

養父市は、全国の有名ブランドの素牛になる「但馬牛」の生産地である。また、はやくから「安心・安全な食べ物づくり」を提唱し、有機栽培を取り組んだ高原野菜の生産地があり、たい肥利用を柱とした農のバイオマス利活用のベースが構築されている。本構想では、家畜排せつ物の100%たい肥化利用、生ごみのエネルギー化、木質バイオマスの活用を柱とし、バイオマス利活用の推進による「やぶし有機の里づくり～循環型農村社会～」の実現を目指す。